東御市スポーツ推進計画
後期アクションプラン（素案）

（2022 年度～2023 年度）

令和4年3月
東御市

目　次

Ⅰ　はじめに

1　東御市スポーツ推進計画の策定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　推進計画の位置付け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

3　推進計画の期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4　推進計画の進捗管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅱ　後期アクションプランの策定について

1　後期アクションプラン策定の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

2　後期アクションプランの期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

3　後期アクションプランの推進方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

4　後期アクションプランの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

5　後期アクションプランの進捗管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

6　ＳＤＧｓの達成に向けた位置づけ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅲ　前期アクションプランの検証

1　前期アクションプランにおける戦略（柱）の評価と方向性　・・・・・・・・・・・7

2　前期アクションプランにおける各取組み事業の評価と方向性　・・・・・・・・・・13

3　取組み（事業）の展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

Ⅳ　実施主体による具体的取組み（事業）

1　取組み（事業）の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

2　取組み（事業）の内容（個票）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

Ⅴ　後期アクションプランにおける取組（事業）の進捗管理評価シート　・・・・・37

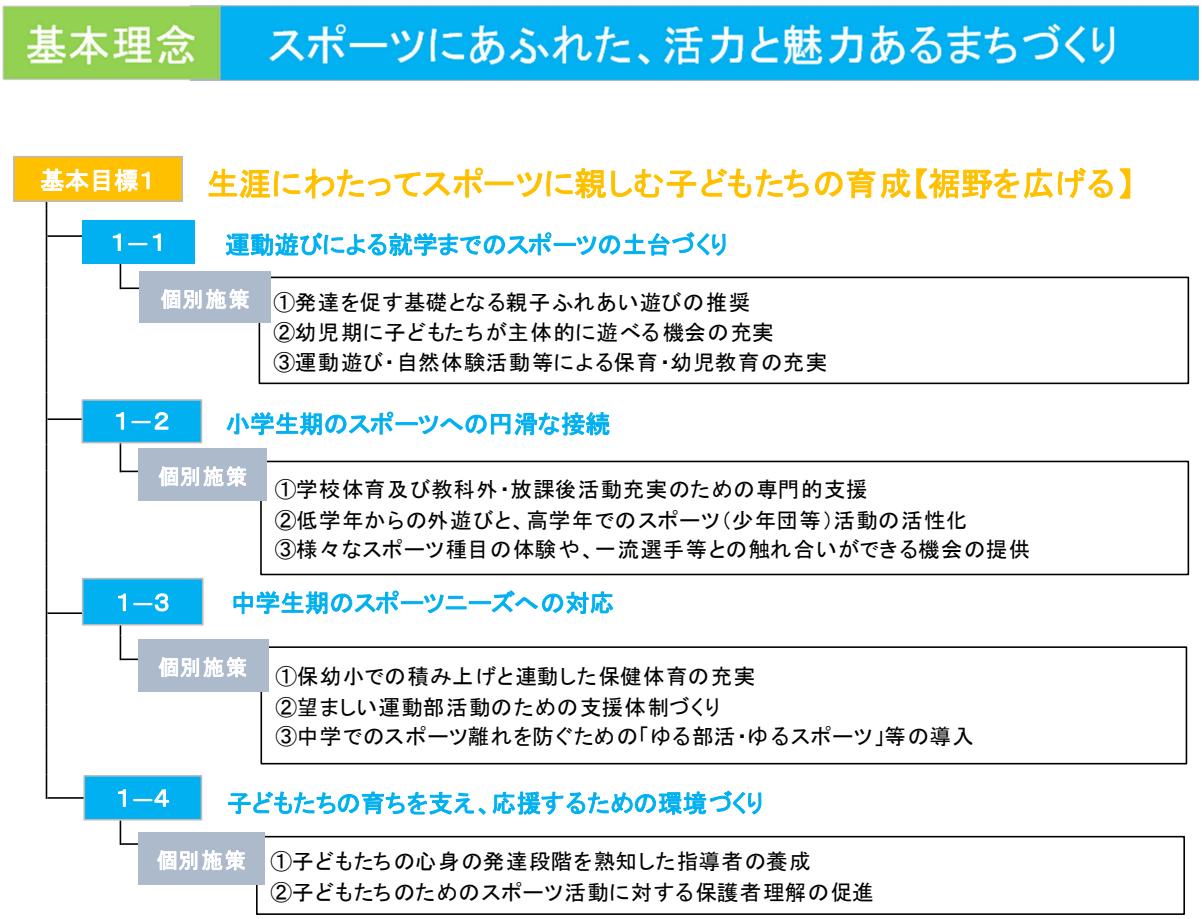
Ⅰ　はじめに

１　東御市スポーツ推進計画の策定

スポーツ基本法（平成 23 年）の施行に伴う国の「スポーツ基本計画」や「長野県スポーツ推進計画」との整合を図るとともに、本市の特徴を活かしつつ、スポーツが持つ限りない力で地域の活性化を図るためのスポーツ振興施策として、平成 30 年度に東御市スポーツ推進計画（以下「推進計画」という。）を策定しました。

この推進計画では、「スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり」と基本理念とし、「日常にスポーツがあり、人間関係と地域経済が豊かな、健康で笑顔輝くまち・とうみ」を 10 年後の目指す姿として、「スポーツの裾野を広げる」、「スポーツで外から誘う」、「スポーツの高みを目指す」という３つの視点から４つの基本目標を掲げ、13 の施策方針ごとに個別施策を展開し目標の実現を図るものとしています。

図表　推進計画の体系



基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実【裾野を広げる】

2－1　スポーツ参加のきっかけとなる機会（イベント）の充実

個別施策

①市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取組み
②行政他分野の各事業におけるスポーツの積極的な導入

2－2　青壮年期のスポーツ活動の促進

個別施策

①働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進
②働き盛り世代のスポーツ習慣化への支援
③積極的な情報発信

2－3　スポーツ施設等（ハード）の整備と活用

個別施策

①スポーツ施設の適正管理
②小中学校の学校体育施設の開放

2－4　地域スポーツ活動・人材等（ソフト）の充実

個別施策

①スポーツ推進委員活動の強化
②体育協会活動充実への支援
③総合型地域スポーツクラブや人材バンク等の創設

2－5　スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり

個別施策

①身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実
②障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催
③市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い

基本目標3　スポーツによる地域経済の活性化【外から誘う】

3—1　スポーツツーリズムの推進

個別施策

①地域スポーツコミッションの設立
②湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入
③東御市ならではのスポーツの魅力発信
④ホストタウン事業による交流人口の増加

3—2　スポーツを活かした地域の活性化

個別施策

①産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知 見蓄積
②専門機関等とのサポート連携協定の推進
③スポーツを活かした企業を支援する環境整備
④スポーツ医科学研究（運動・栄養等）と連携したビジネスの創出

基本目標4　競技スポーツ人口の拡大と競技力向上【高みを目指す】

4—1　スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続

個別施策

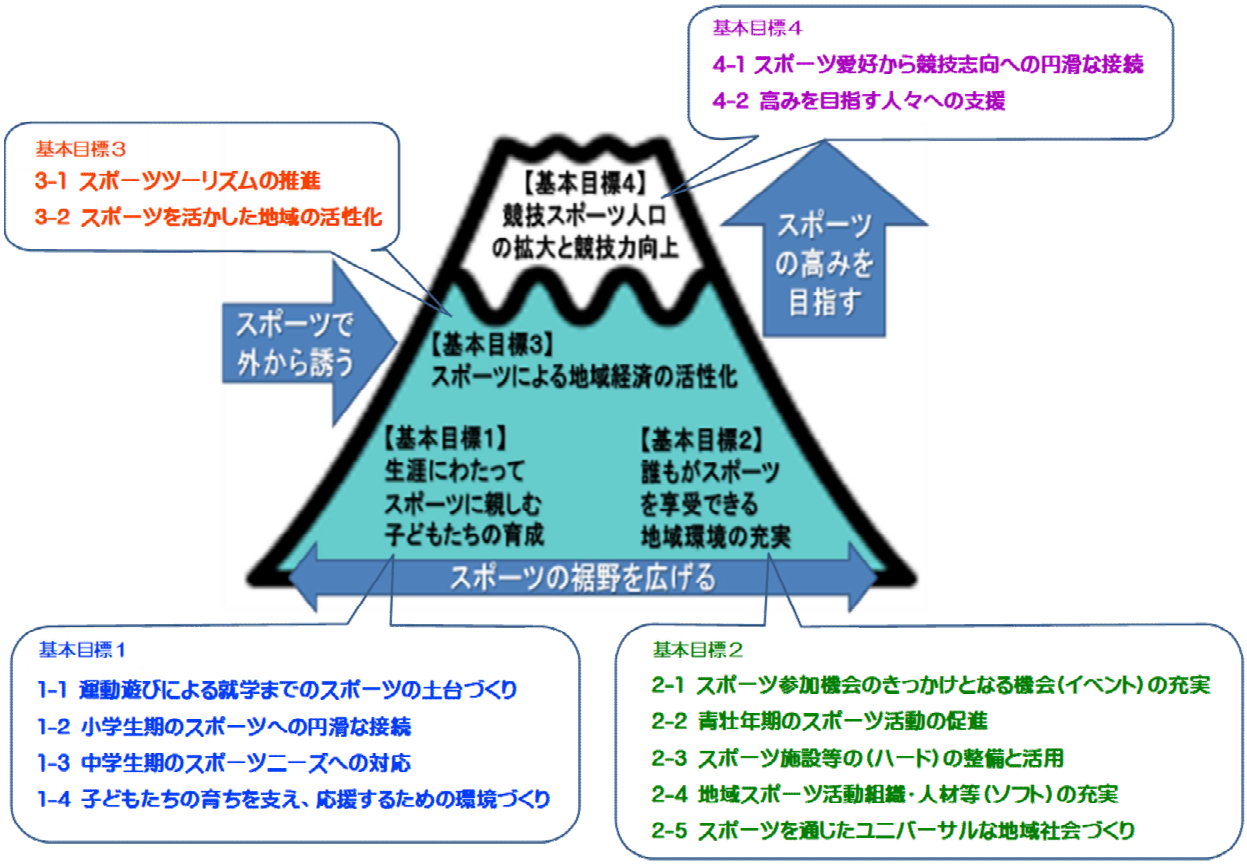
①トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供
②少年団・運動部活動等のレベルアップ支援

4—2　高みを目指す人々への支援

個別施策

①強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実
②競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援
③高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘
④東御市、湯の丸高原へスポーツ合宿に訪れた選手やチームへの応援

図表　スポーツ推進計画策定における３つの視点と基本目標の位置づけ

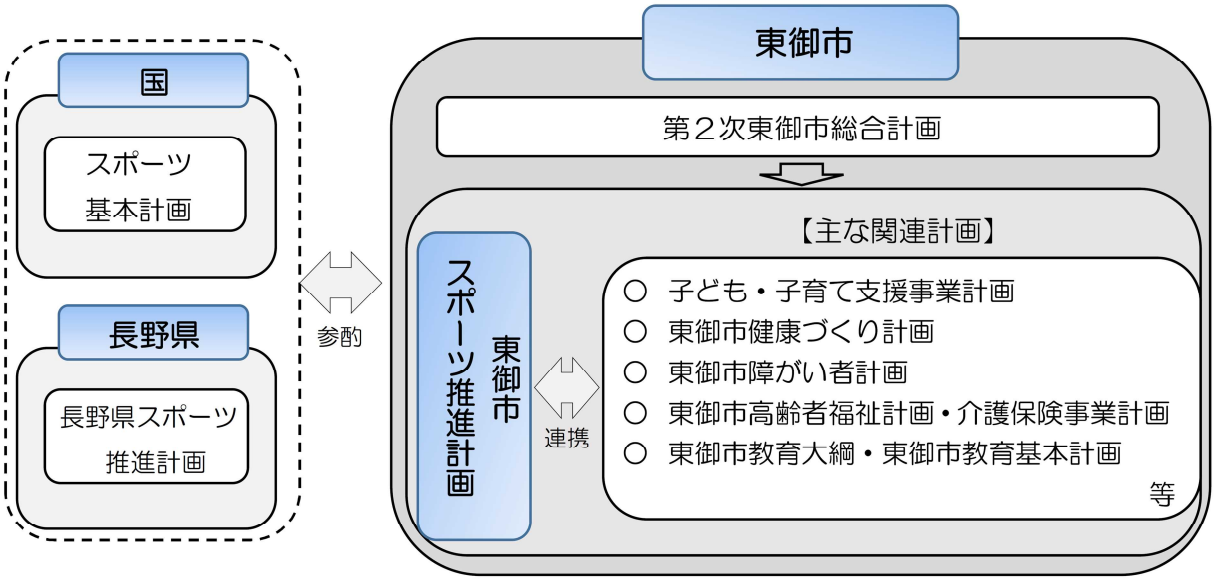


2　推進計画の位置付け

２　推進計画の位置づけ

本市推進計画は、スポーツ基本法第 10 条の「地方スポーツ推進計画」と位置づけ、国の「スポーツ基本計画」や長野県の「スポーツ推進計画」を尊重し、「第２次東御市総合計画・後期基本計画」を上位計画とし、「子ども・子育て支援事業計画」、「東御市健康づくり計画」、「東御市障がい者計画」等の各種計画と整合を図るとともに、東御市スポーツ推進審議会の意見を聴きながら、本市におけるスポーツ推進の基本的な方向性を示しています。

図表　推進計画の位置づけ



３　推進計画の期間

推進計画は、10 年後の「目指す姿」を見据えた前半５年間の計画とし、計画期間を平成 31 年度（2019 年度）から平成 35 年度（2023 年度）までの５年間としています。

４　推進計画の進捗管理

推進計画の円滑な推進を図るため、その進捗管理については、施策の実施状況や目標の達成状況を定期的に把握する必要があります。

このため、施策の進捗状況や社会情勢の変化等に柔軟に対応するため、前期（令和 2～3 年度）、後期（令和 4～5 年度）からなる目標の達成のための具体的な行動計画となるアクションプランを定め、必要に応じて適宜見直しを行うものとします。

Ⅱ　後期アクションプランの策定について

１　後期アクションプラン策定の趣旨

推進計画に掲げた基本目標を実現していくためには、理念を踏まえつつ、その時々の社会情勢等に的確に対応し、重点的に行うべき取組みや優先度の高い取組みについて、効果的かつ効率的に実施していくことが必要です。

このため、令和２年から令和３年の２か年を計画期間として策定した前期アクションプランの成果や課題を踏まえ、令和４年から令和５年を計画期間とした後期アクションプランを策定します。

２　後期アクションプランの期間

後期アクションプランの計画期間は、令和４年度（2022 年度）から令和５年度（2023 年度）までの２年間とします。

３　後期アクションプランの推進方法

推進計画における基本目標を具体化するためには、子ども・子育て支援、健康づくり、高齢者・障がい者福祉や学校教育等々の分野の各種計画との整合性が極めて重要になります。

このため、行政内部における関連部局との連携を密にし、市民や関係団体が共通認識を持って総合的かつ計画的に取り組みます。

４　後期アクションプランの概要

後期アクションプランは、推進計画の実現に向け、前期アクションプランにおける取組成果や課題を踏まえて、後期アクションプラン計画期間において展開する取組内容や具体的な事業を取りまとめています。

◇実施主体が実施する個別の取り組みについては、アクションプランの展開、アクションプランの取組み（事業）内容（個票）に示しています。

◇推進計画における取組み状況を把握しやすく、また、的確に進捗管理ができるよう、基本目標に紐づけて構成し着実な事業執行を目指します。

◇各年度のスポーツ行政の実行指針となり、後期アクションプランで示す具体的取組み（事業）（個票）の達成により推進計画の実現を図ります。

◇実施主体及び連携先が市民をはじめ、スポーツ関係団体、専門機関、企業等の幅広い主体と協働しながら取組みます。

５　後期アクションプランの進捗管理

後期アクションプランの進捗状況の点検・評価は、３つの戦略（柱）について、成果、達成度、課題等について各担当課が連携し点検を行い、評価の中で取組み（事業）を分析し次期スポーツ推進計画への反映につなげます。

また、客観性を確保するため、点検・評価原案に対しては、目標等の達成状況について「東御市スポーツ推進審議会」の意見を聴取して効果を検証し、必要に応じて内容の見直しを行い効果的かつ効率的に取組み（事業）を進めます。

６　ＳＤＧｓの達成に向けた位置づけ

本計画は、スポーツ推進計画に掲げた基本目標に即した具体的な取組みを示したものです。よって、スポーツ推進計画に掲げる施策と特に関連するＳＤＧｓの目標を下表のとおり紐づけ、本計画の推進がＳＤＧｓの目標達成に資するものとして位置付けます。

基本目標	特に関連するＳＤＧｓの目標
【基本目標１】 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成	3 すべての人に健康と福祉を　4 質の高い教育をみんなに　9 産業と技術革新の基盤をつくろう
【基本目標２】 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	3 すべての人に健康と福祉を　4 質の高い教育をみんなに
【基本目標３】 スポーツによる地域経済の活性化	8 働きがいも経済成長も　9 産業と技術革新の基盤をつくろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう
【基本目標４】 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上	4 質の高い教育をみんなに　17 パートナーシップで目標を達成しよう

3 すべての人に健康と福祉を	保健	**【目標3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。** 住民の健康維持は自治体の保健福祉行政の根幹です。国民皆保険制度の運営も住民の健康維持に貢献しています。都市環境を良好に保つことが住民の健康状態の維持・改善に必要であるという研究も報告されています。
4 質の高い教育をみんなに	教育	**【目標4】すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。** 教育の中でも特に義務教育等の初等教育においては自治体が果たすべき役割は非常に大きいといえます。地域住民の知的レベルを引き上げるためにも、学校教育と社会教育の両面における自治体行政の取組は重要です。
8 働きがいも経済成長も	経済成長と雇用	**【目標8】包摂的かつ持続可能な経済成長、及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。** 自治体は経済成長戦略の策定を通して地域経済の活性化や雇用の創出に直接的に関与することができます。また、勤務環境の改善や社会サービスの制度整備を通して労働者の待遇を改善することも可能な立場にあります。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	インフラ、産業化、イノベーション	**【目標9】強靭(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進、及びイノベーションの推進を図る。** 自治体は地域のインフラ整備に対して極めて大きな役割を有しています。地域経済の活性化戦略の中に、地元企業の支援などを盛り込むことで新たな産業やイノベーションを創出することにも貢献することができます。
17 パートナーシップで目標を達成しよう	実施手段	**【目標 17】持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。** 自治体は公的／民間セクター、市民、NGO／NPOなどの多くの関係者を結び付け、パートナーシップの推進を担う中核的な存在になり得ます。持続可能な世界を構築していく上で多様な主体の協力関係を築くことは極めて重要です。

Ⅲ　前期アクションプランの検証

１　アクションプランにおける戦略（柱）の評価と方向性

前期アクションプランにおける取組み（事業）は、スポーツ振興を加速させるため、新たな“地域スポーツ・プラットフォーム”の形成を目指し、３つの戦略を掲げ取り組んできました。

（１）前期アクションプラン３つの戦略（柱）の評価

戦略１は「総合型地域スポーツクラブ Sany TOMI」が令和３年度に設立されたこと、戦略２は市民への生涯スポーツの機会提供と拡充を図ったこと、戦略３は、新型コロナウイルス感染症の影響があったもののアスター施策とインナー施策の両立に取り組んだことなど、それぞれ組織体制の構築と機能強化を最優先に取り組んだ結果、一定の成果が得られたものと評価しています。

戦略１：地域を創る総合型地域スポーツクラブとの創設　⇒　評価：Ａ

地域における多様なスポーツ機会の提供、コミュニティーの醸成を支援する新たな組織として、多世代、多種目、多志向の幅広い事業展開を叶える総合型地域スポーツクラブを創設します。

◇　幼少期から小学生期での運動遊び、外遊びプログラムの提供
◇　スポーツ推進委員、地域づくりの会との連携によるスポーツイベントの開催
◇　とうみボッチャオープン大会の企画、開催・公民館・児童館でのボッチャ教室
◇　各種スポーツクラブ・教室及び中学校運動部活動・ゆるスポクラブへの指導者派遣
◇　企業と連携した働き盛り・子育て世代のスポーツプログラムの提供
◇　高齢者向けの健康づくりプログラムの開催　等

戦略２：裾野の拡大を目指したスポーツ推進委員の活躍　⇒　評価：Ｂ

行政、スポーツ団体と地域の架け橋となってスポーツ振興を支える地域スポーツのコーディネーターとしての役割を担えるようスポーツ推進委員の機能強化を図ります。

◇　地域におけるスポーツ機会、生涯スポーツの機会提供、市民のスポーツニーズの把握と反映、多様な組織・団体との連絡調整を強化
◇　総合型地域スポーツクラブ、地域づくりの組織との連携・協力体制を構築　等

戦略３：スポーツコミッションによる地域経済の活性化　⇒　評価：Ｂ

スポーツを活かした地域の収益性と知名度向上を目指すスポーツコミッション機能の発揮を支援し、スポーツの更なる広がりと本市特有の新たな魅力創出を図ります。

◇　湯の丸高原スポーツ関連施設全体のコーディネート機能・統制機能の発揮
◇　円滑なスポーツ合宿受入と＋αのサービス提供
◇　交流イベントを含む各種イベントの開催（宿泊数増加、競技力向上）
◇　合宿来訪者の一元管理による効率的かつ積極的なプロモーションによる交流人口及び収益の増加　等

（２）後期アクションプラン戦略（柱）の方向性

戦略は、未来に向け、特に重点的・施策横断的に取り組む必要のある課題に対応し、目標の達成や将来像の実現を目指し立案されるものであります。このため、これまでの達成度合いや新たな社会変化を捉える中で必要な見直しを行うことが求められます。

とりわけ、昨今、市民のスポーツ活動の多様化、高度化にともない、指導者に対するニーズが高まっていること、また働き方改革の中で中学校における「休日部活動の段階的な地域移行」が開始されるといった社会変化には適切に対応していく必要があります。

このため、前期戦略１に掲げた「総合型地域スポーツクラブの創設」が達成した今、新たな戦略として学校体育・スポーツ、コミュニティスポーツ、アウトドアスポーツ、チャンピオン・スポーツの各領域において、指導を求める人のニーズに適切に応えることのできる指導者の養成・確保を方向付けるものとします。

また、戦略２「裾野の拡大を目指したスポーツ推進委員の活躍」、戦略３「スポーツコミッションによる地域経済の活性化」は前期アクションにおいて“緒に就いたばかり”であり、さらなる取り組みの充実が求められているため、見直して継続するものとします。

このことから、後期アクションプラン戦略には次の３つを掲げ、前期戦略において形成された“新たな地域スポーツのプラットフォーム”環境の充実と発展に取り組んでいきます。

後期アクションプランにおける戦略（柱）

戦略１：スポーツを支える人づくり～スポーツ人財バンク制度の確立～【新規】

スポーツの各領域において、指導を求める人のニーズに適切に応えることのできる指導者の養成・確保と資質の向上に取り組みます。

◇　市民、学校、職域、各種団体の要請に応じてスポーツ指導者を派遣する仕組みの確立

◇　部活動の地域移行を踏まえた、スポーツ指導者の確保と育成

戦略２：裾野の拡大を目指したスポーツ推進委員の活躍

行政、スポーツ団体と地域の架け橋となってスポーツ振興を支える地域スポーツのコーディネーターとしての役割を担えるようスポーツ推進委員の機能強化を図ります。

◇　地域におけるスポーツ機会、生涯スポーツの機会提供、市民のスポーツニーズの把握と反映、多様な組織・団体との連絡調整の強化

◇　総合型地域スポーツクラブ、地域づくりの組織との連携・協力体制の強化・充実

戦略３：スポーツコミッションによる地域経済の活性化

スポーツを活かした地域の収益性と知名度向上を目指すスポーツコミッション機能の充実により、スポーツの更なる広がりと本市固有の価値の創造を図ります。

◇　地域や経済の活性化を目指すアスター施策と市民のスポーツ参加機会を促進するインナー施策の両立

◇　湯の丸高原スポーツ関連施設全体のコーディネート機能・統制機能の発揮

◇　交流イベントを含む各種イベントの開催（宿泊数増加、競技力向上）

＜参考＞　前期アクションプラン戦略評価におけるスポーツ推進審議会委員の主な意見

戦略１　地域を創る総合型地域スポーツクラブの創設

・スポーツの普及や周知が前提ではあるが、他機関と連携しつつ、クラブ単独でも魅力ある運営が行える仕組みづくりを願う。
・各種スポーツクラブ、教室及び中学校運動部活動への指導者派遣は、勤務する企業の理解が必要不可欠であり、企業の理解と協力が重要で体制強化が必要である。（当審議会委員に商工会長・工業振興会理事長の参加を検討）
・異年齢児が集まり自分たちで遊びを考える場が少なくなる中、「げんき塾」は子供と高校生がふれあう良い取組であり、放課後の子どもたちの居場所がより充実することを願う。

戦略２　裾野の拡大を目指したスポーツ推進委員の体制強化

・スポーツ推進委員の活躍の場が市民目線として見えていない。市報やWeb等を利用し、認知度が上がる工夫が必要である。

戦略３　スポーツコミッションによる地域経済の活性化

・「地域経済の活性化」本事業の最大のテーマ（目標）といえる。湯の丸高原スポーツ関連施設の知名度を生かし、充実した環境と地産地消に拘った美食をテーマとしたイベントの開催を通じ地元住民にも理解応援の得られる体制強化。

（３）　前期アクションプランにおける実施主体の具体的な取組み（事業）の評価

基本目標	基本施策
基本目標１ 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成	１－１ 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり
	１－２ 小学期のスポーツへの円滑な接続
	１－３ 中学生期のスポーツニーズへの対応
基本目標２ 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	２－１ スポーツ機会のきっかけとなる機会（イベント）の充実
	２－２ 青壮年期のスポーツ活動の促進
	２－３ スポーツ施設（ハード）の整備と活用
	２－４ 地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実
	２－５ スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり
基本目標３ スポーツによる地域経済の活性化	３－１ スポーツツーリズムの推進
	３－２ スポーツを活かした地域の活性化
基本目標４ 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上	４－１ スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続
	４－２ 高みを目指す人々への支援

取組名	評価	方向性
1　東御の子どもの元気な育ちを支える事業	A	事業定着のため後期には掲げない
2　子どもの育ちを支える人材育成事業	A	見直して継続
3　公立保育園における自由保育の推進	A	事業定着のため後期には掲げない
4　運動遊び、信州型自然保育支援事業	A	見直して継続
5　体力・運動能力等調査への専門的支援	A	見直して継続
6　放課後子ども教室事業の実施	B	見直して継続
7　日本体育大学体操部との交流	A	事業定着のため後期には掲げない
8　運動部活動への支援体制づくり	A	見直して継続
9「ゆるスポーツクラブ」の設置に関する検討	A	見直して継続
10　チャレンジデーへの継続参加	B	見直して継続
11　健康づくり事業（ウォーキング教室）	A	経常的な取組のため後期には掲げない
12　親子参加型スポーツ教室の実施	A	見直して継続
13　スポーツ施設長寿命化計画の策定	A	事業定着のため後期には掲げない
14　スポーツ推進委員組織体制の検討	B	事業定着のため後期には掲げない
15　総合型地域スポーツクラブの創設・運営支援	A	見直して継続
16　スポーツ指導員人材バンクの創設	A	見直して継続
17　一般介護予防事業	A	見直して継続
18　とうみボッチャオープン大会の開催	B	見直して継続
19　みんなの健康×スポーツ実行委員会運営支援	A	事業定着のため後期には掲げない
20　公民館、児童館でのボッチャ活動	B	見直して継続
21　小・中学校におけるユニバーサルスポーツ体験	A	事業定着のため後期には掲げない
22　「地域スポーツコミッション」の運営支援	A	見直して継続
23　スポーツツーリズムイベントの開催	B	見直して継続
24　モルドバ共和国ホストタウン交流事業	ー	事業終了のため後期には掲げない
25　湯の丸高原スポーツ交流施設整備に伴う経済効果検証	B	事業定着のため後期には掲げない
26「高所トレーニング国際シンポジウム」の開催支援	B	見直して継続
27　大学等との包括連携協定による地域スポーツ環境の充実	A	継続
28　トップアスリートとの交流イベント開催	C	継続
29　スポーツ表彰制度の創設	B	経常的な取組のため後期には掲げない
30　スポーツ体験会・スポーツ能力測定会の実施	B	継続
31　湯の丸高原スポーツ交流施設合宿者との交流会	B	継続
32　東京 2020 五輪競技大会コミュニティライブサイトの実施	ー	事業終了のため後期には掲げない

評価方法　S:目標以上に実施　　A:目標どおりに実施　　B:目標以下の効果で実施

C:大部分目標未達成　　ー:やむを得ず中止

＜参考＞　前期アクションプラン取組事業評価におけるスポーツ推進審議会委員の主な意見

１－１　運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり

①-2 子育てが終わったお母さんたちに協力いただけるシステム構築など

③-1 目的・狙いの意味は分かるが、的が広すぎてわかりずらい。時節ごとにテーマを設けては。

１－２　小学期のスポーツへの円滑な接続

①-1 小学生の体力低下や肥満など幼少期からの野外活動「外遊び」の減少が原因と思う。定期的な体力測定を通じ体力の向上に必要な方法を考える。

①-2 安全な環境整備や地域住民の参画も大切だが、ケガや事故を考えると二の足を踏む人も多い。子供にとって何が重要なのかを考え参加者にもある程度の自己責任を認識してもらう。

１－３　中学生期のスポーツニーズへの対応

②・③-1（運動部活動への支援体制づくり）部活動指導者や教員・保護者の負担軽減を担う地域の導者の充実・大事なことだが、体制づくりのために地元企業の協力が必要である。

２－１　スポーツ機会のきっかけとなる機会（イベント）の充実

①-1 普段あまりスポーツの機会がない市民の健康維持や促進として継続は良い。
市民のスポーツへの関心が少しでも高まるよう啓発活動を進めていく。

２－２　青壮年期のスポーツ活動の促進

①-2 親子で参加できる条件を考慮し運動・スポーツだけでなく＋αで楽しめるイベント実施。

２－４　地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実

①-1 専門部制ついてスポーツ協会が類似した活動をしており、課題はあるが協力体制を図る。

③-1・2 指導者・協力者の確保が最大のテーマである。推進委員、指導者、関係団体も会社員が多く協力体制も限られている。指導者・ボランティアの発掘確保は難問である。

２－５　スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり

①-1 健康寿命の増進のために効果の高い事業であり、楽しく参加できる雰囲気を目指し継続。

②-1 障がい者、健常者、高齢者の枠を超えたユニバーサルスポーツの普及は現代社会の目指す重要なテーマである。市民・近隣住民が気軽に参加できる取組みを考える。

③-2 スポーツを通じて偏見差別のない時代を目指す事業として進める。

３－１　スポーツツーリズムの推進

①-1 湯の丸高原スポーツ施設を中心とした収益事業はスポーツ推進計画の最大の目標といえる。収益を上げる体制強化の確立を重点的に進める。

②-2 施設の充実に加え魅力あるイベント開催。（地元食材を使用した美食イベントなど）

３－２　スポーツを活かした地域の活性化

①-1 つつじ祭り来場者や登山者を対象にアスリート食堂で食事提供。（地元食材のアピール）

①-2 知名度向上のため継続

②-1 高地トレーニングの聖地ブランド化を図り魅力ある食事提供を通じ集客増を目指す。

４－１　スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続

①-1 アスリートとの交流イベントの開催は地元選手の資質向上や住民への理解促進に繋がる。

４－２　高みを目指す人々への支援

②-1 小学校の頃からの多くのスポーツ・遊びを体験してスポーツの楽しさや達成感を経験することは重要である。楽しみながら参加できる体験会・能力測定会を目指す。

２　前期アクションプランにおける各取組み（事業）の評価と方向性

（１）前期アクションプランの評価

アクションプラン総数 32 事業について、各担当課により成果、達成度を評価分析した結果、「Ａ：目標どおりに実施」18 事業、「Ｂ：一部目標未達成、目標以下の効果で実施」11 事業、「Ｃ：大部分目標未達成」1 事業、「－：やむを得ず中止」2 事業と評価結果をまとめています。

前期アクションプランの評価結果

区分	評価結果	取り組み（事業）数	割合
S	目標以上に実施、目標以上の効果を上げて実施	0	0%
A	目標どおりに実施	18	56.3%
B	一部目標未達成、目標以下の効果で実施	11	34.4%
C	大部分目標未達成	1	3.2%
－	やむを得ず中止	2	6.3%
計		32	100%

評価区分「Ｓ」「Ａ」「Ｂ」が全体の 90.7%を占めることから、総じて前期アクションプランは各種事業の展開により成果が得られていると評価することができます。

このうち「Ｃ」評価の“トップアスリートとの交流イベント開催事業”及び「－」評価の“東京 2020 オリンピック競技大会コミュニティライブサイト実施事業”、“モルドバ共和国ホストタウン交流事業”に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止を余儀なくされたものであり、理由が明確であるため、外部評価を司る東御市スポーツ推進審議会における意見聴取では外的要因による影響事項については評価方法を一考すべきとの意見もいただいています。これら新型コロナウイルス感染拡大に伴う目標未達成は 32 事業中、11 事業に上っています。

また、目標を達成した事業の多くが既に定着化している経常的事業になっている点なども個別事業の見直しを図っていく必要も生じています。

外部評価では、一層の充実に向け、コロナ禍における事業実施手法の工夫や中学校における「休日部活動の段階的な地域移行」に関する指導者確保、運動をする子としない子の二極化による子どもたちの体力低下への対応を求めるご意見が多く寄せられており、これらは最優先事項として後期アクションプランへ適切に反映させていきます。

（２）後期アクションプラン策定に向けた課題と方向性

次期アクションプランでは、前期 2 か年の評価結果と課題を整理し、次の５項目を最優先事項として方向付けます。

・幼少期から高齢者までの多岐にわたるスポーツニーズの受け皿となるスポーツ指導者人材の確保と育成
・障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツの普及と働き盛り・子育て世代である青壮年期のスポーツ習慣の定着化

・多様なスポーツ機会の提供を支え、市民のスポーツ参加機会を促進する総合型地域スポーツクラブの運営支援
・市民、行政、各種スポーツ関係団体をつなぐパイプ役、また地域スポーツのコーディネーターとして活躍できるスポーツ推進委員の機能強化
・高地トレーニング合宿の適地性を活かしたアウター施策（積極的な合宿誘致、スポーツツーリズム）の実施による地域経済の活性化

（３）基本目標の達成に向けた後期アクションプランの方向性

少子・高齢化や情報化の進展など、私たちを取り巻く社会環境が急激に変化していく中、いつでも・どこでも・だれでも継続的にスポーツに親しめる環境づくりを進める「総合型地域スポーツクラブ」と休日部活動の段階的な地域移行を念頭においた「スポーツ人財のバンク」の機能を最大限に高めるとともに、既に目標を達成し経常的事業として定着しているものはプラン終了を判断し、これまでも目標達成に至らない事業についてはその達成が図られるよう事業の実施手段を見直したうえに取り組んでいくものとします。

３　取組み（事業）の展開

後期アクションプランは、推進計画期間（５年間）の言わば集大成となることから、前記のとおり組織の創設及び体制の強化に主眼を置いた３つの戦略（柱）に即した新規、強化及び継続すべき取組み（事業）をそれぞれ掲げます。

なお、それぞれの実施主体が行う具体的な取組み（事業）は、推進計画に規定する基本目標及び個別施策に紐づけて設けており、17 頁以降に記載しています。

基本目標１　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

基本施策	個別施策	取組（事業）名
１－１ 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり	① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨	1. 子どもの育ちを支える人材育成事業【継続】
	③ 運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実	1. 運動遊び、信州型自然保育支援事業【継続】
１－２ 小学期のスポーツへの円滑な接続	① 学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援	1. 体力・運動能力等調査への専門的支援【見直し】
		2. 放課後子ども教室事業の実施【見直し】

１－３ 中学生期のスポーツニーズへの対応	② 望ましい運動部活動のための支援体制づくり	1. 運動部活動への支援体制づくり【見直し】
	③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入	**1. 「ゆるスポーツクラブ」の実施【新規】**

基本目標２　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

基本施策	個別施策	取組（事業）名
２－１ スポーツ機会のきっかけとなる機会（イベント）の充実	① 市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取組み	1. チャレンジデーへの継続参加【継続】
２－２ 青壮年期のスポーツ活動の促進	① 働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進	1. 親子参加型スポーツ教室 働き盛り世代対象の教室の実施【見直し】
２－４ 地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実	① スポーツ推進委員活動の強化	1. スポーツ推進委員組織の充実【見直し】
	③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク（仮称）の創設	**1. 総合型地域スポーツクラブ Sany TOMI の運営【新規】** **2. スポーツ人財バンクの運用【新規】**
２－５ スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり	① 身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実	1. 一般介護予防事業【見直し】
	② 障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催	1. とうみボッチャオープン大会の開催【継続】
	③ 市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い	1. 公民館でのボッチャ活動【見直し】

基本目標３　スポーツによる地域経済の活性化

基本施策	個別施策	取組（事業）名
３－１ スポーツツーリズムの推進	① 地域スポーツコミッションの設立	1. 「地域スポーツコミッション」の運営支援【継続】
	② 湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入	1. スポーツツーリズムイベントの開催【継続】
３－２ スポーツを活かした地域の活性化	① 産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積	1. 長野県国民スポーツ大会に向けた高地トレーニングセミナーの開催【見直し】
	② 専門機関等とのサポート連携協定の推進	1. 大学等との包括連携協定による地域スポーツ環境の充実【継続】

基本目標４　競技スポーツ人口の拡大と競技力向上

基本施策	個別施策	取組（事業）名
４－１ スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続	① トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供	1. トップアスリートとの交流イベント開催【継続】
４－２ 高みを目指す人々への支援	② 競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援	1. 子どもたちの競技力向上【見直し】

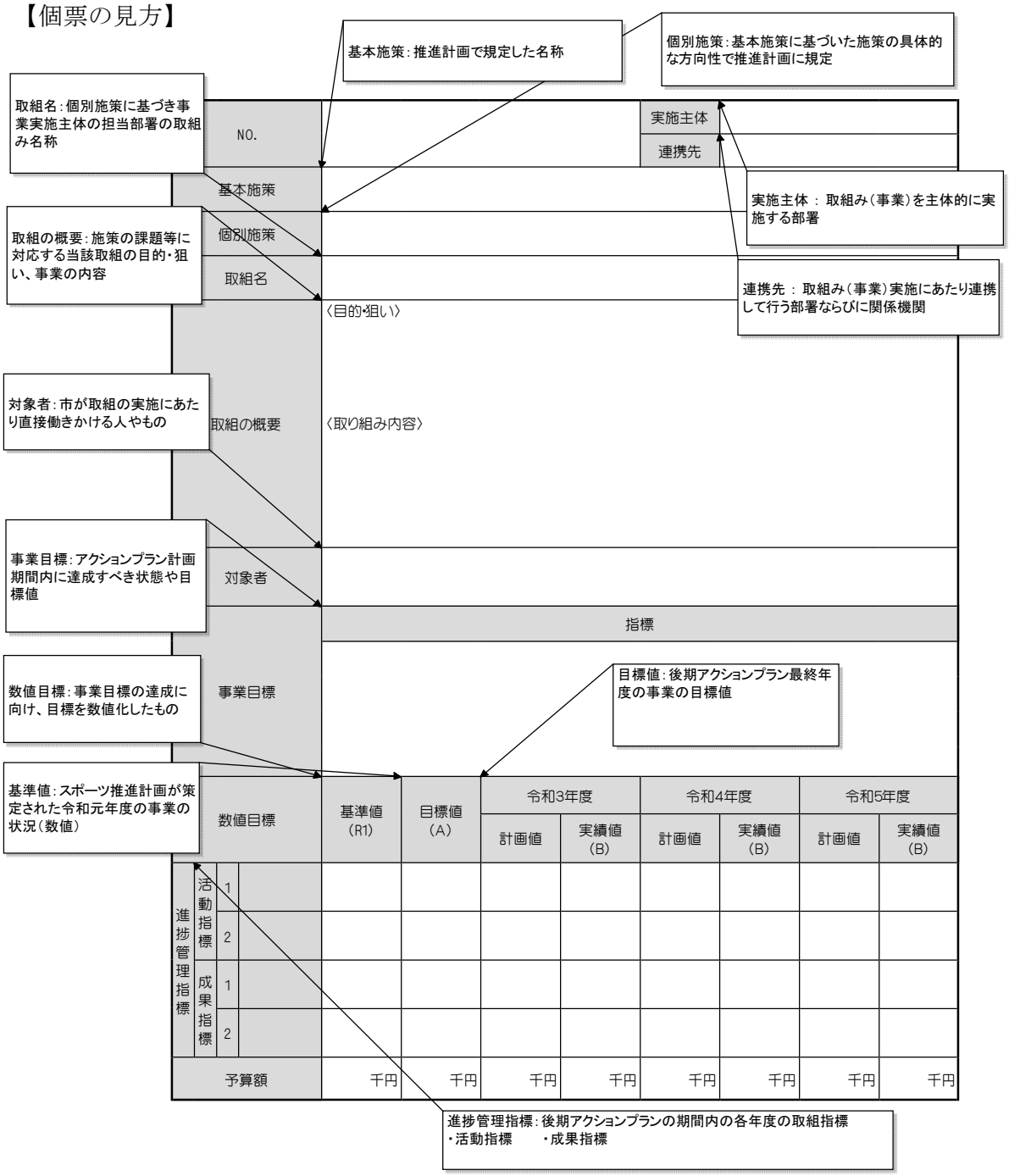
Ⅳ　実施主体による具体的取組み（事業）

１　取組み（事業）の構成

推進計画は、４つの基本目標に 13 の施策方針、更には、38 の個別施策で構成されています。個別施策は、目標を達成するための取組み（事業）の方向性であり、方向性に沿った具体的な取組み（事業）を効果的かつ効率的に執行するために、後期アクションプランでは、令和４年から令和５年の２年間で前期アクションプランにおける取組成果や課題を踏まえたうえで３つの戦略を掲げ、その実現のため各実施主体が実施する 20 の具体的な取組み（事業）を示し、それぞれの個票にまとめています。

なお、個票は、推進計画における基本目標及び基本施策に準じて構成しています。

【個票の見方】



2　取組み（事業）の内容（個票）

基本目標1　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

乳幼児期の運動、保育・幼児教育の現場における運動遊びの習慣化や信州型自然保育の取組みとして、地域特有の自然環境を活用した「外遊び」を中心に運動遊びから得る「楽しさ」を通じて幼児期に育むべき志向・能力の向上を目指します。また、学齢期までの継続的なスポーツの機会を通じて、子どもたちがスポーツの意義・価値を実感でき、生涯スポーツへのきっかけとなるような支援を行うことでスポーツ機会の充実と体力向上を図ります。

NO.	1-1-①-1	実施主体	子育て支援課
		連携先	身体教育医学研究所
基本施策	1ー1　運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり		
個別施策	①　発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨		
取組名	1 子どもの育ちを支える人材育成事業		
取組の概要	〈目的･狙い〉 子どもの育ちに関心ある保護者や子育て支援センターで養成を受けた子育て支援サポーター等地域の子どもの育ちを支える人材、保育関係者等の育成を図る。 〈取り組み内容〉 子育て支援サポーター養成者フォロー講座の開催		
対象者	サポーター希望者		
事業目標	指標		
	子育てサポーターの登録者の増加と活動への参加者の増加を目指す。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	子育て支援活動参加数			ー	ー				
		2									
	成果指標	1	子育て支援サポーター数	53	62	56		59		62	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標1　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

NO.	1-1-③-1	実施主体	子育て支援課
		連携先	身体教育医学研究所
基本施策	1−1　運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり		
個別施策	③ 運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実		
取組名	1 運動遊び、信州型自然保育支援事業		
取組の概要	〈目的・狙い〉 健康的な生活習慣を子どもたちに定着させるため、体を動かして遊ぶことの楽しさを「運動遊び」により、また、地域資源を活用した屋外活動や地域との交流活動を「信州型自然保育」による保育を推進します。 〈取り組み内容〉 身体教育医学研究所が園児を対象に運動能力の研究をしており、研究結果から出た課題を克服する運動遊びを取り入れます。		
対象者	園児		
事業目標	指標		
	研究結果をもとに、運動能力の課題を克服し、運動能力の向上を目指します。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	克服プログラム数	−							
		2									
	成果指標	1	運動能力の向上割合	−							
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標1　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

NO.	1-2-①-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	身体教育医学研究所、スポーツ推進委員
基本施策	1－2　小学期のスポーツへの円滑な接続		
個別施策	①　学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援		
取組名	1 体力・運動能力等調査への専門的支援		
取組の概要	〈目的・狙い〉 ・国が実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、本市の児童生徒の体力・運動能力の状況を正確に把握し、施策の成果と課題を的確に捉えることからその改善を図るとともに、子どもたちの体力の向上に向けた継続的な検証改善サイクルを確立する。 〈取り組み内容〉 ・毎年度、児童（小学5年生）及び生徒（中学2年生）を調査対象として実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、事前準備段階から身体教育医学研究所、スポーツ推進委員による連携を図り、各種調査の正確な実施を徹底し、適正な調査結果が得られるよう努める。		
対象者	・小中学校教員 ・児童生徒		
事業目標	指標		
	近年の東御市の調査結果をもとに、運動能力の課題を克服し、体力テストの平均点を向上させる。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	調査回数	1	1	1		1		1	
		2									
	成果指標	1	小中学生の体力テスト合計点平均	50.59	52	51		51.5		52	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標1　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

NO.	1-2-①-2	実施主体	教育課、総合型地域スポーツクラブ
		連携先	文化・スポーツ振興課、スポーツ推進委員
基本施策	1ー2　小学期のスポーツへの円滑な接続		
個別施策	①　学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援		
取組名	2　放課後子ども教室事業の実施		
取組の概要	〈目的・狙い〉 小学生期に身近な場所でスポーツに親しむ元気な子供の育成と児童の放課後を安心安全に過ごせる環境整備を兼ね、放課後に地域住民の参画を得て学校施設等を活用した様々な体験・交流活動プログラムを提供することでスポーツによる達成感を知り、スポーツの習慣化、競技スポーツへの接続及び生涯スポーツへのきっかけの場とします。なお、当面の間は、現在の「げんき塾」の取組みを拡充する形で継承し、放課後等の活動を一層充実させます。 〈取り組み内容〉 ・運営方針、実施要領の作成　・事業計画作成　・スタッフの確保 ・お知らせ、参加者募集（登録）　・スタッフ調整会議の開催（プログラム検討、PDCA管理等）		
対象者	登録児童（小学1～6年生）		
事業目標	指標		
	・継続実施 ・登録者増加による定着 ・スタッフ体制の充実		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	教室実施回数	10	20		10	20		20	
		2									
	成果指標	1	参加者数（延べ人数）	140	500		172	400		500	
		2	ボランティアスタッフ（延べ人数）	54	200		77	140		200	
		3	東御清翔高等学校（延べ人数）	85	50		12	25		50	
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標1　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

NO.	1-3-②-1	実施主体	文化・スポーツ振興課、教育課
		連携先	スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ
基本施策	1－3　中学生期のスポーツニーズへの対応		
個別施策	② 望ましい運動部活動のための支援体制づくり		
取組名	1　運動部活動への支援体制づくり		
取組の概要	〈目的・狙い〉 ・令和5年度から、中学校における休日の運動部活動指導が地域へと移行するにあたり、新設したスポーツ人財バンクを活用し、運動部活動の一層の充実を図るとともに、地域と学校が連携した支援体制の構築に向けた検討を行います。 〈取り組み内容〉 ・地域での支援体制検討会議の開催 （スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、中学校運動部活動顧問、外部指導者等が連携し地域における支援体制の充実に向けた検討を行う。）		
対象者	指導員		
事業目標	指標		
	持続可能な運営を行うための人材の確保が課題になる。 スポーツ人財バンクを活用し、指導員の確保を図る。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	会議開催数	0	2	0		2		2	
		2									
	成果指標	1	部活動指導員数	2	30	5		15		30	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標1　生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

NO.	1-3-③-1	実施主体	教育課、総合型地域スポーツクラブ
		連携先	文化・スポーツ振興課、スポーツ推進委員
基本施策	1－3　中学生期のスポーツニーズへの対応		
個別施策	③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入		
取組名	1　「ゆるスポーツクラブ」の実施		
取組の概要	〈目的・狙い〉 運動部活動に加入しない生徒を対象に、楽しめる運動やニュースポーツを体験できる場を提供し、継続して運動を続けようとする意欲につなげることを目的に、自分のペースで運動・スポーツを実施したい、運動離れしている生徒を対象に「ゆるスポーツクラブ」を実施します。 〈取り組み内容〉 総合型地域スポーツクラブの指導者が定期的に学校へ赴き、生徒とともに運動の楽しさをクラブ活動を通して通年開催する。なお、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブとの連携・協力体制の構築に向けた検討を行います。		
対象者	市内生徒		
事業目標	指標		
	・活動の通年開催 ・運営方針、実施要領の作成　・事業計画作成　・スタッフの確保（支援体制） ・お知らせ、参加者募集（登録）　・スタッフ調整会議の開催（プログラム検討、PDCA管理等）		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	実施回数								
		2									
	成果指標	1	参加者数（単発）	0	20	0	4	10		20	
		2	参加率（単発）	0	16.81	0	3.36	8.4		16.81	
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが自分のライフステージに応じたスポーツ活動に取組めることは、生涯を通して幸福で豊かな生活を営むための基盤です。
よって、健康長寿社会、ユニバーサル社会の実現に向けた取組みを優先的に行い、スポーツ活動を支える人づくりや、環境整備等によってさまざまなライフステージに応じたスポーツ活動を推進し、生涯にわたる地域スポーツの振興を図ります。

NO.	2-1-①-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	身体教育医学研究所
基本施策	2－1　スポーツ機会のきっかけとなる機会（イベント）の充実		
個別施策	①　市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取組み		
取組名	1　チャレンジデーへの継続参加		
取組の概要	〈目的・狙い〉 運動やスポーツの習慣化を図るきっかけづくりとして、継続的にチャレンジデーに参加することで、健康意識や運動・スポーツに対する意識の向上を図ります。 参加にあたっては、コロナ禍でも実施できるオンラインプログラムを企画する。また、チャレンジデーをきっかけに、スポーツ団体やプロ スポーツチームとの協力関係を深めることで、様々な教室やイベントの開催につながることを期待します。 〈取り組み内容〉 ①チャレンジデー東御市実行委員会の設置:広報活動、関係団体への協力依頼、プログラム内容の決定 ②各年度の目標・テーマの設定 ③広報活動として、地域にチャレンジデーの取組み意義を知ってもらうため、広報誌 や地元新聞、ラジオ、CATV等のメディアを活用して、チャレンジデー当日のイベントや参加方法について積極的に周知する		
対象者	市民、市内在勤・在学者		
事業目標	指標		
	市民総参加型スポーツイベントとして、事前周知及び関係機関との連携により、運動・スポーツを「する」機運を高める。コロナ禍の運動不足により健康二次被害が増えるなか、コロナ禍でも簡単に運動ができるプログラムを提供し、令和5年度での参加率63％を目指す。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	広報活動回数	4	8	-	3	6		8	
		2									
	成果指標	1	イベント参加率	60.3%	63%	61%	45.8%	62%		63%	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-2-①-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	総合型地域スポーツクラブ、身体教育医学研究所
基本施策	2－2　青壮年期のスポーツ活動の促進		
個別施策	①　働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進		
取組名	1　親子参加型スポーツ教室・働き盛り世代対象の教室の実施		
取組の概要	〈目的・狙い〉 「東御市の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果、男性の30～40代、女性の20～40代のいわゆる働き盛り・子育て世代のスポーツ実施率は低く、運動不足と感じている方も多い世代でした。一方で、「子どもの体力つくり」が本市のスポーツ振興への期待として多いことも伺えました。 そこで、親子が一緒にスポーツを楽しむ機会を設けることで、運動・スポーツに親しむきっかけとします。実施にあたっては、参加しやすい時間帯、場所、内容を検証した親子参加型スポーツプログラムで、親の運動不足、ストレスの解消を図るとともに、子どもの肥満解消、スポーツの習慣化による体力の向上等の好循環化を図ります。 なお、本取組みは、第2次東御市健康づくり計画「健康とうみ21」後期計画（令和2年～6年度）の基本方針1に規定する施策（2）身体活動・運動の推進の具体的な取組みとして実施します。 〈取り組み内容〉 1　プログラムの開催 ・親子：スラックライン、カヌー体験 ・働き盛り世代：湯の丸高原ウォーク、ヨガ教室 2　企業の「健康経営」等と連携した取組みの検証 3　各プログラムの指導者発掘 4　積極的な周知及び募集		
対象者	市民、市内在勤親子		
事業目標	指標		
	①プログラムの検証・構築 ②参加者（企業参加含む）の増加		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	教室回数	－	20	－		10		20	
		2	プログラム数	－	4	－		4		4	
	成果指標	1	参加者数	－	400	－		200		400	
		2	参加率	－		－					
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-4-①-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	スポーツ協会、スポーツ推進委員
基本施策	2－4　地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実		
個別施策	①　スポーツ推進委員活動の強化		
取組名	1　スポーツ推進委員組織の充実		
取組の概要	〈目的・狙い〉 市民や行政、スポーツ協会、障がい者スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどとの連携を図るとともに、多様な組織や団体との連絡調整を行う中で幅広いネットワークを築き、地域スポーツに欠くことのできない「支える」組織の基盤として体制を強化し、地域に適した大会・イベント等の企画、地域スポーツのコーディネーターとして、市民のスポーツや健康づくりの基盤として地域におけるスポーツ活動の幅を広げる活発な活動ができる組織を目指します。 〈取り組み内容〉 スポーツ推進委員の目的を共有するため研修会や勉強会を企画する。 多様な価値観を受け入れ、地域のニーズを捉えた独自のスポーツイベントを企画するなど、地域スポーツのコーディネーターとしての役割を果たせる人材で構成する、質の向上を目指した組織とする。		
対象者	東御市スポーツ推進委員		
事業目標	指標		
	スポーツイベントを開催し、市民に対し運動・スポーツに触れ合うきっかけ作りの場を提供する。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	勉強会開催数	－	2	1	1	2		2	
		2	イベント開催数	－	2	2	1	2		2	
	成果指標	1	スポーツ人財バンク登録人数	－	8	－	0	4		8	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-4-③-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	
基本施策	2－4　地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実		
個別施策	③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク（仮称）の創設		
取組名	1　総合型地域スポーツクラブSany TOMIの運営		
取組の概要	〈目的・狙い〉 総合型地域スポーツクラブSany TOMIの会員が増える事で地域住民のスポーツ関係人口増が見込める。その為にも安定した運営が必須となり、多くの方が興味を持てるプログラム展開が必要となる。 〈取り組み内容〉 拠点（クラブハウス）の活用、指導者の発掘、新規プログラムの開設を進めると同時に利用者のニーズの聞き取りをし、求められる運営及び活動を展開する。 会員の満足度を向上させる為にプログラムや指導以外のサービスの向上を目指し、会員の継続、参加率増を図る。 また関係団体や組織などと連携をし、既存の総合型地域スポーツクラブの認識を覆す新しいカタチの総合型地域スポーツクラブを目指す。		
対象者	総合型地域スポーツクラブ会員		
事業目標	指標		
	幅広い年齢層を対象とし、ニーズに応じたクラブ運営を進める。 教室数の増加及び会員数の増加。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	教室数	－	9	－	－	7		9	
		2									
	成果指標	1	会員数	－	250	－	－	150		250	
		2	事業参加率	－		－	－				
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-4-③-2	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、教育機関
基本施策	2－4　地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実		
個別施策	③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク（仮称）の創設		
取組名	2　スポーツ人財バンクの運用		
取組の概要	〈目的・狙い〉 スポーツ指導員の登録制度により、運動・スポーツの指導ができる（したい）人と指導を受けたい人を結びつけ（マッチング）、市民が気軽に、いつでも、どこでも、いつまでも、運動・スポーツに親しめる環境の整備とスポーツ指導者が知識、経験を活かした活躍ができる仕組みづくりをすることで市内スポーツの活性化を図ることを目的とする。 〈取り組み内容〉 スポーツ協会、各競技団体、スポーツ関係団体、企業、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等との連携により多種多様な指導者の募集、掘起し、また積極的な指導者資格の取得に向けた支援体制を構築する。スポーツ指導員の登録制度を確立し、市内の団体、学校部活動、地域スポーツクラブ等へ指導員を紹介する。また、指導者の資格取得助成を行うことで、指導の質の向上を図る。		
対象者	スポーツ指導者		
事業目標	指標		
	各種スポーツ関係団体や市民等幅広く広報活動を行うことで「スポーツ人財バンク」への登録者数を増やす。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	広報回数	－	6	－	3	4		6	
		2									
	成果指標	1	登録者数	－	50	10	4	30		50	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-5-①-1	実施主体	福祉課
		連携先	身体教育医学研究所、みまき福祉会
基本施策	2－5　スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり		
個別施策	① 身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実		
取組名	1　一般介護予防事業		
取組の概要	〈目的・狙い〉 高齢者等の身体・認知機能の維持・向上を図るために継続的な活動を要することから、活動の中心となる指導員、サポーター及び参加者の増加を図る。 〈取り組み内容〉 1　らくらく教室（頭と体を無理なく刺激する介護予防教室） 地区公民館で、それぞれ週1回通年で実施 2　かんたん体操教室（ストレッチ、全身の筋肉を意識した運動） 武道館等で月2回通年で実施 3　貯筋教室（腹筋やスクワットなどの筋力トレーニング） 武道館等で月2回通年で実施 4　転倒予防水中ウォーキング（水中でのストレッチ、ウオーキング等） 温泉アクティブセンターで毎週1回通年で実施		
対象者	概ね65歳以上の市民		
事業目標	指標		
	地域で主体的に介護予防活動を実践する人材の育成及び介護予防事業参加者の増加を図ります。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	介護予防事業参加者数								
		2									
	成果指標	1	介護予防事業サポーター数								
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-5-②-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	みんなの健康×スポーツ実行委員会
基本施策	2－5　スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり		
個別施策	② 障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催		
取組名	1　とうみボッチャオープン大会の開催		
取組の概要	〈目的・狙い〉 　誰でも一緒に楽しめるユニバーサルスポーツ「ボッチャ」の普及を図るとともに、ボッチャを通して、市内住民のみならず、近隣市町村住民までの交流を図り、障がいへの理解を深めるとともに「ボッチャのまち・とうみ」を目指す。 〈取り組み内容〉 ・ボッチャの大会＋1種目のユニバーサルスポーツ体験会を実施 ・県及び他団体の取り組みと連携を図り、年間を通じてストーリー性のあるイベントとする ・団体や組織、学校、施設からチーム出場を募るため、事前練習会を開催		
対象者	市民・近隣市町村住民		
事業目標	指標		
	体験会・練習会の実施によるボッチャの普及を目指し、参加者増加及びボッチャコートの常設数を目指す。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	体験会開催数	－	10	10	7	10		10	
		2									
	成果指標	1	イベント参加者数	－	440	300	304	370		440	
		2	コート数	2	6	3	2	4		6	
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標2　誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

NO.	2-5-③-2	実施主体	生涯学習課
		連携先	身体教育医学研究所
基本施策	2－5　スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり		
個別施策	③ 市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い		
取組名	2　公民館でのボッチャ活動		
取組の概要	〈目的・狙い〉 ・日常の活動へユニバーサルスポーツの取り込み ・公民館に設置しているボッチャの活用 〈取り組み内容〉 目標を作り、積極的な参加を促す 公民館:分館交流スポーツ大会の種目とするよう働きかけ、それに向けての日々の活動		
対象者	市民		
事業目標	指標		
	身近な場所で「する」機会を増やす事から、日常（身近）にボッチャがある環境づくり、ユニバーサルスポーツに触れる機会を増やす。		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	公民館でのイベントの開催数								
		2									
	成果指標	1	公民館に設置しているボッチャの利用（貸出）回数	—	—	—	11	20		20	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標3　スポーツによる地域経済の活性化

本市の強みである湯の丸高原高地トレーニング施設を起爆剤として、官民が一体となり、スポーツ合宿の誘致、観光と連動したスポーツツーリズムを推進することで、知名度の向上や交流人口の拡大による地域経済の活性化を図ります。なお、スポーツ合宿・イベントの誘致によって、外から多くの人を誘い、交流人口の増加、ブランド化による集客増加の好循環を生み出すことで、更なる地域経済の活性化へつなげるとともに、専門機関との連携により、施設整備により実施している高地トレーニングの効果、スポーツツーリズムによる経済効果の検証・分析を行い、今後の地域にとっての経済活性化方策についても検討します。

NO.	3-1-①-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	
基本施策	3－1　スポーツツーリズムの推進		
個別施策	①　地域スポーツコミッションの設立		
取組名	1　「地域スポーツコミッション」の運営支援		
取組の概要	〈目的・狙い〉 　スポーツと地域資源である湯の丸高原スポーツ交流施設を戦略的に活用して地域経済の活性化を推進する「地域スポーツコミッション」の経営的自立と地域に経済効果をもたらす公益的機能を発揮できる事業体となるよう支援します。 　市、スポーツ団体及び観光産業等が一体となった組織である「スポーツコミッション」が地域の特色を活かしたスポーツツーリズム資源の開発、独自性の高いイベントの創出・合宿の誘致等により、交流人口の増加と定着を図ります。また、「東御市」及び「湯の丸高原」の知名度向上のための積極的なプロモーションを多方面で展開し、ブランド力の強化及び地域全体の売上げ増加を目指します。 〈取り組み内容〉 1　湯の丸高原全体の内部統制機能の構築 ①合宿・施設利用の受付／問合せ一本化、②各施設（宿泊、食事、施設）に関する意見収集、評価／分析、③スポーツ合宿の全体統制やPR活動等に関わる予算管理 2　組織の経営的自立（来訪者の増加/維持） ①高い専門性とマーケティング力を持つ人材の確保、②プロモーション活動、③スポーツを核とした幅広い事業（イベント等）の企画／運営、④組織の収益源の確保		
対象者	合宿・イベント等の来訪者		
事業目標	指標		
	①湯の丸高原入込客数（単位:百人） ②スポーツ合宿延べ宿泊数（単位:泊）		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	利用者誘客のためのイベント開催	1	3	3		3		3	
進捗管理指標	成果指標	1	湯の丸高原入込客数	5,483	5,519	5,495		5,507		5,519	
進捗管理指標	成果指標	2	スポーツ合宿延べ宿泊数	11,972	16,000	12,900		14,500		16,000	
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標3　スポーツによる地域経済の活性化

NO.	3-1-②-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	スポーツコミッション、身体教育医学研究所
基本施策	3－1　スポーツツーリズムの推進		
個別施策	② 湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入		
取組名	1　スポーツツーリズムイベントの開催		
取組の概要	〈目的・狙い〉 「湯の丸高原施設整備基本構想」の実現により、高地トレーニングの適地である標高1750mに位置する湯の丸高原に全天候型400mトラックや屋内プール等のスポーツ交流施設が整備され、陸上中長距離、水泳を中心とした本格的な合宿受入を行っている。今後ますます合宿の誘致を中心としたプロモーションを実施することはもとより、魅力的なスポーツツーリズムイベントを開催することで交流人口の拡大、知名度向上、集客増加等、地域経済活性化の好循環を創設する。 〈取り組み内容〉 ①テレビ、雑誌、新聞等によるメディアを活用した積極的なプロモーション活動 ②信州とうみ観光協会による、首都圏からの誘客による陸上、水泳のスポーツツーリズムイベントの開催 ③スポーツコミッションにおいて、湯の丸スポーツ交流施設一帯の施設運営、プロモーションによるスポーツツーリズムイベント開催、合宿受入等を一元的にマネジメントする。		
対象者	陸上長距離・水泳のアスリート、高地トレーニング導入を目指す指導者、市内外参加者（愛好者）		
事業目標	指標		
	スポーツツーリズムイベント開催回数（単位:回）		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	イベント開催数	1	3	3	0	3		3	
		2									
	成果指標	1	参加者数	32	90	90	0	90		90	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標3　スポーツによる地域経済の活性化

NO.	3-2-①-2	実施主体	身体教育医学研究所
		連携先	高所トレーニング環境システム研究会、文化・スポーツ振興課
基本施策	3－2　スポーツを活かした地域の活性化		
個別施策	①　産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積		
取組名	2　長野県国民スポーツ大会に向けた高地トレーニングセミナーの開催		
取組の概要	〈目的・狙い〉 現在、GMOアスリーツパーク湯の丸を利用する学生のうち、多くが県外学生で占めています。2028年の長野国民スポーツ大会にあわせ、県内学生アスリートに利用いただくことで選手の競技力向上を図るだけでなく、県内からトップアスリートの育成することで、大会を通じ、市民及び県民の感動につなげ、湯の丸高原の知名度向上を図ります。 〈取り組み内容〉 セミナーの開催に向けた各学校へのPR活動、県内学生の誘客活動の実施。		
対象者	県内学生アスリート		
事業目標	指標		
	高地トレーニングセミナーの開催及び参加者数		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度 計画値	令和3年度 実績値（B）	令和4年度 計画値	令和4年度 実績値（B）	令和5年度 計画値	令和5年度 実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	セミナー開催数	－	2	－	－	1		2	
		2									
	成果指標	1	参加学校数	－		－	－				
		2	参加者数	－		－	－				
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標3　スポーツによる地域経済の活性化

NO.	3-2-②-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	大学、企業、スポーツコミッション
基本施策	3－2　スポーツを活かした地域の活性化		
個別施策	② 専門機関等とのサポート連携協定の推進		
取組名	1　大学等との包括連携協定による地域スポーツ環境の充実		
取組の概要	〈目的・狙い〉 大学・企業に集積する知識、情報等を多様な政策目標のために活用し、学生等の参加により地域に不足する若い人材と専門知識を有する大学・企業等の協力を得て地域におけるスポーツ環境の充実を図るとともに、広くPRすることで地域の活性化につなげます。 また、行政ニーズや大学等の持つ強みや双方の人的ネットワークの深まりによって、多様な形で展開することを目指します。 〈取り組み内容〉 ・スポーツにおける地域資源の発掘等に関する調査・共同研究 ・高地トレーニングの聖地「湯の丸高原」のブランド化へ向けた提言 ・合宿の食事管理への監修、検食等による栄養分野でのサポート		
対象者	市民、利用者		
事業目標	指標		
	①湯の丸高原入込客数（単位:百人） ②スポーツ合宿延べ宿泊数（単位:泊）		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	タイアップ事業数	－	10	－		5		10	
		2									
	成果指標	1	湯の丸高原入込客数	5,483	5,519	5,495		5,507		5,519	
		2	スポーツ合宿延べ宿泊数	11,972	16,000	12,900		14,500		16,000	
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標4　競技スポーツ人口の拡大と競技力向上

地元の選手が大きな舞台で活躍する姿は、観るものに感動と勇気を与えるばかりでなく、地域に元気とスポーツへの興味を生み出します。

将来、国内トップレベルとなる選手を本市から輩出するため、指導者の育成、学校部活動の体制整備、競技スポーツ人口の拡大などに取組み競技力の向上を図ります。

本市への合宿誘致を通じて、トップレベルの競技者・指導者を身近に見る機会から選手、指導者のレベルアップを図ります。また、湯の丸高原を国内屈指の高地トレーニングエリアとして整備し、積極的なプロモーションをすることで競技者・指導者を招聘し、この地域ならではの交流機会の充実を図ります。

NO.	4-1-①-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	スポーツコミッション、スポーツ協会 総合型地域スポーツクラブ
基本施策	4－1　スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続		
個別施策	① トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供		
取組名	1　トップアスリートとの交流イベント開催		
取組の概要	〈目的・狙い〉 高地トレーニング施設整備により湯の丸高原スポーツ交流施設での合宿者をきっかけとして、国内トップレベルのアスリート及び指導者を招聘し、交流の機会を設け、アスリート及び指導者の競技力向上に向けた取組み姿勢、練習方法、指導方法や等に直接触れることでのレベル向上を図る。 〈取り組み内容〉 ・練習見学 ・指導者及び選手との触れ合いイベントの開催		
対象者	競技者、指導者（保護者含む）		
事業目標	指標		
	トップアスリートとの交流イベントの開催回数（単位:回）		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	トップアスリートとの交流イベントの開催回数	2	2	3	2	2		2	
		2									
	成果指標	1	参加者数	160	350	―	271	300		350	
		2									
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

基本目標4　競技スポーツ人口の拡大と競技力向上

NO.	4-2-②-1	実施主体	文化・スポーツ振興課
		連携先	スポーツ協会、身体教育医学研究所
基本施策	4－2　高みを目指す人々への支援		
個別施策	② 競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援		
取組名	1　子どもたちの競技力向上		
取組の概要	〈目的・狙い〉 市内学校では屋外プールしか保有しておらず、練習時期が限定的となっていしまうことから、湯の丸にある屋内プールを有効活用し子どもたちの競技力向上を目指します。 また、活用するにあたって地域の中から指導者を発掘することで地域において育てられる環境を整備します。 〈取り組み内容〉 ・中高生が湯の丸にある屋内プールを定期的に利用できる環境の構築		
対象者	競技者、指導者（保護者含む）		
事業目標	指標		
	①スポーツ体験会の開催 ②スポーツ能力測定会の開催 各2回実施		

数値目標				基準値（R1）	目標値（A）	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
						計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）	計画値	実績値（B）
進捗管理指標	活動指標	1	体験会及び測定会の実施回数	－	4	4	－	2		4	
		2									
	成果指標	1	参加者数	－	100	100	－	50		100	
		2	測定値向上割合								
予算額				千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

Ⅱ　後期アクションプランにおける取組（事業）の進捗管理評価シート

基本目標	基本施策	個別施策	取組名	取組の概要	基準値	令和○年度中間	令和○年度実績	令和○年度評価	評価説明	評価に対する意見・要望等

評価方法
「S」・・・目標以上に実施、目標以上の効果を上げた実施　「A」・・・目標どおりに実施　「B」・・・一部目標未達成、目標以下の効果で実施　「C」・・・大部分目標未達成　「―」・・・やむを得ず中止

※この様式は、次年度以降、必要に応じて内容を変更する場合があります。

東御市 企画振興部 文化・スポーツ振興課 スポーツ係
TEL：0268-75-1455　FAX：0268-63-5431
Email:sports@city.tomi.nagano.jp